第164回 火曜会“絹の道”を歩き横浜港へ・中華街で自由にランチを楽しむ！

絹の道とは

安政６年（１８５９）横浜港が開港され、輸出が始ると日本の生糸が横浜から大量に欧米へ送られるようになった。八王子は関東周辺、多摩地域の生糸の集積地であったが、直接八王子から横浜へ生糸が送られるようになる。このとき八王子市「遣水」地区の商人が仲買として、大きな利益を上げ「遣水商人」として名前を挙げることになった。生糸は馬、人力により八王子から南下し、「遣水峠」を越え、田端、小山を抜け、境川沿いに原町田に出て横浜港へと向った。このことにより「遣水」の人々は大いに栄える事になるが、長くは続かず、鉄道の開通などにより、「遣水商人」達にも繁栄は終りが告げられる。この道は「浜街道」と呼ばれていたが、昭和２０年代に研究者により「絹の道」と名付けられた。現在開発により大部分道は失なわれてしまったが、一部「遣水峠」に「絹の道」として古道が整備されている。

さて今回の健生クラブ火曜会の企画は横浜港周辺の絹の道（横浜道・よこはまみち）を歩き、開港当時から現在に至る歴史散歩のプチ旅です。
下図で横浜市内の処でクランクに曲がった線の所、高島町から横浜港に至る文化史跡や歴史散策です、当時の面影を想像し頭の体操をしながら楽しく歩きましょう！

又横浜新田慰留地に建てられた「南京町」、現・横浜中華街でランチを楽しんでください。

■岩亀稲荷神社【西区戸部町】

戸部４丁目交差点から雪見橋までを概ね東西に結ぶ数百ｍの巾広の道が岩亀横丁。現在の中区横浜公園のあたりにあった「岩亀楼」という遊廓（ゆうかく）の遊女が、静養のため利用した寮がここにあったことから岩亀横丁と呼ばれるようになったという。岩亀稲荷には「岩亀楼」の遊女の哀しい物語がある。

■伊勢山皇大神宮【西区宮崎町】

御祭神　天照大御神

『関東のお伊勢さま』と親しまれる当宮は、明治初年に国費を以て創建された神社であり、神奈川県の宗社、横浜の総鎮守とされています。かつては、久良岐郡戸部村の丘陵に鎮座されていましたが、神社名、創建年代共に不明です。

境内は 3900 余坪、御社殿は神明檜造（しんめいひのきづくり）で、太古の掘立造の面影を残し、屋根の千木（ちぎ）［角のような形］と鰹木（かつおぎ）が特徴です。創建当時の社殿は関東大震災の災禍を蒙り、ことごとく倒壊し、現在の社殿は昭和 3 年に復旧建造されたものです。

■野毛山公園【西区老松町】

野毛山公園は、1926 年に開園した、横浜公園や掃部山公園に次ぐ歴史ある公園で都市公園（総合公園）。
敷地内には野毛山動物園があり、約 380 本ある桜の名所としても有名である。園内からはみなとみらい地区も一望できる。

■吉田橋関門跡の碑【中区馬車道】

1859（安政 6）年、外国人殺傷事件に対する警備が目的で東海道から横浜へ入る道に設置された関門跡。
開港直後、開港場への出入り口として、ここに吉田橋が架けられた。
橋には関門が設けられ、開港場の治安を図った。関門を境に海側を関内、陸側を関外と呼んだ

■横浜公園と岩亀楼跡【中区横浜公園】

●港崎遊郭（みよざきゆうかく）は、1858 年（安政 5 年）11 月幕府は遊郭の設置を発表して希望者の出願を促し、1859 年（安政 6 年）11 月 10 日に横浜で開業した遊郭。現在の横浜公園にあった。
●岩亀楼
最隆盛に時には、遊女 1400 人、揚屋 100 軒と途方も無い数字が挙げられていますが、真偽のほどは判りません。
一説には、遊女屋 15 軒、遊女 300 人、幕府は外国人を横浜に引きつけるために、羅紗綿という外国人専用の娼妓を置きました。その最も大きなものが岩亀楼だったのです。
岩亀楼は中が二つに分かれていて、日本人廓と外人廓に分かれており、互いに行き来は出来なかったようです。
この岩亀楼では亀遊という女郎の逸話が有名です。

■横浜商工会議所発祥の地【中区本町】

　横浜商工会議所は、1880 年（明治 13 年）に横浜商工会議所の前身とも言える横浜商法会議所が町会所内に設置された。外国商人に対抗すべく、横浜商人の自立・結束を高める事がその目的であった。それだけ外国人の日本に対する商魂がたくましかった事の裏付けでもある訳だが、これを境に横浜商人達も諸外国との貿易に積極的になり、特に目覚しい発展を遂げたのが、横浜を日本の一大貿易港へと発展させる原動力となった生糸産業だったのである。
横浜商工会議所の発足については、その生糸貿易で名を成した原善三郎や、小野光景らの尽力によるところが大きかったと言われている。

■神奈川運上所跡【中区日本大通】

1866 年 10 月 12 日に関内大火（豚屋火事）で焼失したが翌年に日本最初となる石造りの洋風 2 階建て新庁舎が建築され、それを境に横浜役所という名称となり、1868 年（明治元年）明治政府に移管されたのである。その後の 1872 年（明治 5 年）11 月 28 日に横浜税関と名称を再度改め、現在に至っている。

■日米和親条約締結の地【中区日本大通】

日米和親条約が結ばれたのは、現在、横浜開港資料館が建っているすぐそばの、「開港広場」と呼ばれている場所であり、1854 年（安政元年）の事であった。この時は条約を締結したに留まり、開港するまでには至らなかった。アメリカ側、つまりペリーとしては日本との貿易の自由化を求めていた訳であったが、日本側の強い拒絶に遭ったため、この時は通商を断念せざるを得なかったのである。

■シルク博物館【中区山下町】

横浜と絹の歴史、絹の製造工程、絹の服飾工芸品などを展示、蚕の飼育観察も出来る。